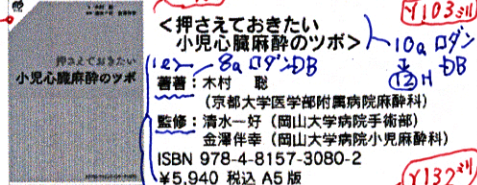


色ベタ (前号流用)  
(or スミベタ)

木村 聡

KIMURA, Satoshi

京都大学医学部附属病院  
麻酔科福岡県出身  
東北大学・2007年卒業<所有資格> 11a ロダンDB 16H  
麻酔科専門医 / 集中治療専門医 11a ロダンM

## ■座右の銘

経験は奪われない財産

## ■これからの目標

私は誰もが認める立派な人間にはなれません。悩みや欲に負けることもしばしばです。しかし、ありきたりの人間にも目指せる姿があります。固定観念にとらわれず、さまざまな価値観を理解でき、人の挑戦を心から応援できる人間でありたいです。一方で、昨今の SNS を含めた大量の情報や政策、時代の流れに流され、本当に大切なものを見失ってはいけないと考えています。これから毎年一つ、何かに挑戦し、自分の目で確かめ進んでいけるよう精進します。

## ■ message 12a ロダンB 18H

年齢とともに守るものが増え、挑戦には公私ともに他人の犠牲が伴います。だからこそ、若いうちにさまざまなことに挑戦しておくことをお勧めします。成功者は自ら歩んできた道を肯定しアドバイスを送ります。時にそれは新たな挑戦を否定することかもしれません。しかし、物事には多側面があり、多くの意見は一側面の立場から捉えた事象に過ぎません。広い視点を得るためには、自ら飛び込み経験するのが一番です。考え過ぎてはいけません。挑戦には軽い気持ちが必要です。アドバイスは時に聞き、時に鵜呑みにせず、自分で経験してから判断してください。

酔科専門医を取得して、さてこれからどうしよう。

サブスペシャリティ? 研究? 麻酔は楽しいし、どれもやってみたい。

結婚や出産はどうしよう?

先輩たちは、どうしてきたんだろう…?

## みんなのプロフィール帳

## ◆ 医師を志した動機 ◆

元々は、アトピー性皮膚炎で苦しんだ経験から、皮膚科医になりたいと医師を志した。

## 医学部卒業からこれまでの歩み

1～3年目 (2007～2009年): 飯塚病院 初期研修医・麻酔科専攻医

山奥の診療所で慢性期地域医療に携わりたいという夢があったが、その前に急性期医療を身につけたいという思いから、飯塚病院に就職した。4月の麻酔科ローテートで全身管理のプロたちに出会い、興味のなかった麻酔科を目指す契機となった。当時は大学病院にも海外留学にもまったく興味なし。

4年目 (2010年): 岡山大学病院 麻酔科レジデント

引き出しを増やすためには大学病院での経験が必要と感じ、また、麻酔科医として成長するためには所属施設の関連医局とは異なる医局に行くべきとのアドバイスをを受け、九州を飛び出し岡山大学病院麻酔科に入局。

5～8年目 (2011～2014年): 呉共済病院 / 福山医療センター 麻酔科、  
麻酔科専門医 取得

市中病院で臨床に没頭。海外学会に参加し、海外で活躍する日本人達に刺激を受け、臨床留学を志した。USMLE の勉強を開始。

9年目 (2015年): オハイオ州立大学リサーチフェロー、ECFMG 取得

とりあえず渡米したもの、英検3級不合格、IELTS リスニング0点という過去を持つ英語力のため、海外生活に苦労した。研究留学を通じて疫学や医療統計の必要性を痛感。

10年目 (2016年): 岡山大学病院 小児心臓麻酔チーム配属、  
集中治療科専門医 取得

小児麻酔や小児集中治療に苦手意識があり、小児心臓麻酔のトレーニングを開始。

12年目 (2018年): ハーバード公衆衛生大学院 入学

再渡米し大学院に入学。プログラミングやデータハンドリング、統計学にハマる。医系技官、コンサル、研究、世界銀行など、臨床以外で世界で活躍する日本人と出会い影響を受けたが、同時に臨床医であることの重要性を再認識。ブログ「シェアする挑戦者」(<https://mmbiostats.com/>) 開設。

14年目 (2020年): メルボルン小児病院 小児集中治療部に臨床留学

尊敬する上司と過ごし、数字やエビデンスでは表せない臨床医としての力を肌で感じ、諦めていた臨床留学を決意。家族と離れて暮らし、留学中は吐きそうなくらい辛く充実した小児集中治療と小児心臓麻酔を経験。初めての単著『絶対にあきらめない医学留学』(中外医学社) 出版。

16年目 (2022年): 医学博士、岡山大学病院 医療情報部

麻酔・集中治療と並行し、医療情報部に所属。病院全体のデータを扱い、電子カルテやデータベース構築について学んだ。LISA で『小児心臓麻酔始め』連載開始。

17年目 (2023年): 京都大学医学部附属病院 麻酔科

『押さえておきたい 小児心臓麻酔のツボ』(MEDSi) 出版。アプリ「Ketsugas calculator」開発。